

令和 5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492601164	事業の開始年月日	平成29年11月1日
		指定年月日	平成29年11月1日
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	相模原古淵グループホームそよ風		
所在地	(〒252 - 0344) 神奈川県相模原市南区古淵1-1-21		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和 6年1月 日	評価結果 市町村受理日	令和6年3月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いろいろな経験と様々なレベルの職員がいるので、多様性を考慮した介護を行っています。過去には、看取りや重度の方への介護をうたってきていましたが、グループ内に特養や老健などの医療対応関連施設がない現実、職員に対する負担の多さから、考えを変え、身の丈に合った介護ということに力を入れています。幸い医療連携でサポートしていただいている機関の皆様とともにお客様の人生という観点から見たサービスの選択ができています。必要があれば医療施設へのバトンタッチをしてゆくという判断もご家族とともに考えています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年2月15日	評価機関 評価決定日	令和6年3月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
 ◇利用者や家族の思いや意向に沿った運営
 共同生活ではあるが、利用者一人ひとりへの尊敬の念を忘れずに個別に対応し、また、家族の思いを大切にしている。
 給食会議を毎月行い、個人別に調理の仕方(刻み、とろみ等)や好き嫌いを考慮したメニューへの反映を考慮している。利用者アンケートを年2回行い、食べたい物を食レクや行事食に反映している。
 コロナウイルスの5類移行後は居室での家族面会を可とし、本人の生活状況を確認できるようにした。利用者の様子を毎月の報告で知らせている。
 ◇職員育成
 職員を育てる取組みとして、資格(介護福祉士、実務者研修等)取得の機会を設け、費用負担をしている。年間の内部研修計画をたて、身体拘束廃止、虐待防止、認知症ケア、感染症、食中毒、ハラスメント、法令順守、職業倫理、事故対応、苦情対応、個人情報保護について学んでいる。
【事業所が工夫している点】
 ◇様々な行事の実施
 年間行事として桜見物、歌、リハビリ体操、七夕、夏祭り、敬老会、ハロウィン、クリスマス会、お正月、節分、桃の節句を計画し、季節や行事を味わって共同生活が楽しくなるように工夫している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	相模原古淵グループホームそよ風
ユニット名	花ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と事業所理念が存在しません。理念に関するメッセージを毎日社長が職員に発信しています。この内容を毎月開催する事業所の全体会議で事業所職員に報告、説明を行っています。	・法人理念「仲間を大切に」、事業所理念「お客様の笑顔と職員の笑顔の共存」を毎月の全体会議で確認している。センター長は毎日の現場巡回時に利用者・職員共に「笑顔」で過ごしていることを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣農家と交流があり、季節ごとの収穫物をいただいている。春夏は胡瓜、ナス、トマト、秋冬は大根、白菜、ねぎなどをもらっています。	・自治会に加入している。地域行事が再開し、案内が来ている。 ・近隣農家からの野菜の差し入れ、散歩時の近隣住民との挨拶等、付き合いを継続している。	・コロナ禍が落ち着いた現在、地域行事への利用者の参加やボランティアの受入れなど、地域との連携を再開することが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践で積み上げた認知症の方の理解や支援の方法を地域の人々に生かすための計画を立案している。短期的にはまず私どもも知っていただくということで、認知を高めてゆくことを進めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者のご家族、自治会長、民生委員、施設オーナー、包括センター職員が出席。入退去者推移、介護度や年齢の変化、事故報告やヒヤリハットを報告している。参加者から意見や助言をもらっている。	・自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族、事業所職員を構成員としている。 ・令和5年1月以降、対面方式で2か月ごとに開催し、運営状況の報告をしている。家族から本人の良好な健康状態に感謝の意の表明ある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期開催の市内グループホーム部会に参加の際、行政からの情報を伝えることができる。事業所の実情を伝えるまでには至っていないが、今後は企業グループとしてのパイプづくりが主となると思います。	・市役所での諸手続きの際に市職員と情報交換をしている。 ・市役所から諸連絡・指示について電話、メール、書面で得ている。 ・相模原市グループホーム連絡会(3か月毎開催)に参加し、情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止・虐待防止委員会を8回開催 (5/29, 7/6, 7/31, 8/25, 9/19, 10/27, 11/24, 12/22) 研修を3回実施 (4/28, 8/25, 10/27) 花ユニット職員は、委員会への出席率は低いが、研修での理解度は高い	・身体的拘束適正化委員会を毎月開催し、議事録を全職員に回覧し周知している。 ・年3回の内部研修でマニュアルを読み合わせ、不適切事例、日常ケアで良かった点、良くなかった点を話し合い、身体拘束の適正化について確認し合っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会及び研修については、上記と同じ。研修や注意後も一部職員による言葉による心理的虐待が継続、管理者による個別指導が行われている。	・虐待防止検討委員会を毎月開催している。法人指定のチェックリストで年2回自己評価している。 ・年3回の内部研修で日常ケアのあり方を話し合っている。利用者にあった言葉かけ、話し方が大事であることを指導している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されているお客様や今後検討しているお客様がいるため、理解しやすい状況にある。職員も高齢者が多いため、自身においても興味・関心が高い内容として学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様やご家族の不安や疑問を取り除けるよう、真摯に対応している。十分に納得してからご入居していただくように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、会社としてご家族に事業所ごとの「顧客満足度調査」を調査会社により、実施している。得られた調査結果を全体会議において、内容を説明し、改善点を確認している。	・利用者の意見は日常の会話から、家族の意見は訪問時や電話等から把握している。 ・法人が家族の満足度をアンケート調査し、把握した意見を職員対応等に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が個々の指導も含めて、個別の面談を行っている。入社後の一定期間内に専門職員による個別面接も実施される。	・月1回の全体会議の他に、センター長は1日1回の巡回で全職員と会話をし、意見を把握している。 ・ケア方法や行事の実施等の提案が多く、可能な提案は実務に反映している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎日職員に向けてメールにより、経営に関しての理念や考え方を発信している。職員研週への参加や各事業所への訪問により、現場の生の情報を収集し、整備に努めている。	・労働時間、給与等について法人規定があり、人事考課を年2回実施している。介護職員処遇改善加算Ⅰ、Ⅱを適用している。(重要事項説明書) ・センター長・管理者は職員のワークライフバランスを考慮してシフトを組んでいる。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアの専門職員の充実ということをサービス面での目標としている。介護福祉士及び認知症実践者研修終了の機会を設けている。	・年間内部研修予定を組み、身体的拘束適正化、虐待防止、感染症・食中毒防止、ハラスメント、法令順守、職業倫理、事故対応、苦情対応、個人情報について学んでいる。 ・法人主導で資格取得の機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループ企業となった「ツクイ」と定例の会議とイベントの共同開催などを通じて、交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様やご家族様と時間をかけてお話することで、安心して入居していただけるよう努めている。退院による入居の場合は、病院に出向いて、本人の意向を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学を進めており、入居前に家族が困っていること、不安なこと、心配事、要望などに傾聴し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様やご家族様と時間をかけてお話することで、安心して入居していただけるよう努めている。経験豊富な複数のケアマネによる介護計画をベースに訪問医療関係者の意見も参考としている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護というグループホーム本来の機能と仲間を大切にするという会社理念を職員は理解しているので、双方に基づいたサービスを行う。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に対しても「仲間を大切にする」という会社理念から人と人のつながりを重視し、ご家族との対話の機会をもうけている。介護に対しての職員の思いを共有することにより、関係を築いてゆく。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢化により馴染みの人との面会は困難な例が多いが、関連する思い出や馴染みの場所については職員がよく理解しているため話をしたり、動画画像をみてもらったりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・知人、友人がときどき面会に来る。また、手紙や電話の取り次ぎを支援をしている。 ・馴染みの場所への訪問は家族が対応している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様個々の持っている力を観察し、協調や繋がりをもてるように日常生活の支援内容を考えている。 例：席の配置やレクリエーションの組み合わせ		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も近況を報告してくださるご家族がいる。ケアマネージャーとの連絡も続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員一人ひとりが、常にお客様の日常生活における希望や意向の把握に努めるような高いコミュニケーション能力を要している。	・日常の会話を通じて利用者の思いや意向を把握し、可能な内容は実務に反映している。 ・会話が困難な利用者については、表情、仕草、声の調子等から思いを察し、声を掛けて確認し、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーやご家族様からの情報を職員が共有している。社内での情報共有のITシステムが活用されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の日常の行動や言動を観察し、ITシステムに記録している。この情報内容を多面的にいろいろな角度から検討し、お客様の状態に合った支援をするように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットごとのタブレットPCに介護計画の全項目を設定し、モニタリング結果を毎日記録している。介護計画については、社内スタッフと外部業者によるダブルチェックで内容が確認されています。	・ユニットごとに可能な職員が参加して月1回ケア会議を開き、介護計画内容を吟味・検討している。 ・介護計画に3か月、6か月期間のケア項目を設定している。タブレットに全項目を登録し、モニタリング結果を毎日記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子をケアカルテ（ITシステム）に記録し、職員全員が確認できるようにしている。ユニット会議を行い、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合サービスの特徴とする企業なので、他のサービスの利用が可能である。（施設の空き待ちでのショートステイ利用など）他サービスでの知見や情報を等事業所での活用も可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナによる影響は社会資源に対しても変化を生じたと考えられます。交流ができたり、関連のある地域資源はどのようなものがあるか再確認し、将来を見通し、どのように協働できるか考える。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医にご協力をいただいているが、入居以前のかかりつけ医に変わりにくく受診しているお客様もおられる。医師の指示を受け、支援している。	・24時間対応可能な医療機関を協力医とし、月2回の内科・精神科の訪問診療を受けている。週1回歯科医・歯科衛生士、看護師の訪問がある。 ・入居時に希望を聞き、入居前のかかりつけ医への継続受診は家族に同行を依頼し、情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護サービスを受けている。職員はお客様の状態を看護師に伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供や支援の為に、こまめに面会に努めている。家族と経過を共有し、互いに安心できるようにしている。病院関係者と情報交換することで、退院後はホームでの生活に早めに復帰できるように配慮している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様のご意向を確認し、重度化した場合の対応、看取り対応に関する指針の合意と契約書を取り交わしている。重度化や看取りに対する専門的対応のグループ内他施設の情報などもご説明している。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化対応・看取りの指針を入居時に家族に説明・同意を得ている。 ・終末期は医師が家族に説明し、家族の意思を尊重して対応している。 ・家族の要望を聞き取り、医師と連携して医療機関や他施設の情報提供をしている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にマニュアルを掲示し、緊急事態に対応できるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、避難の方法を確認している。訓練は昼間と夜間を想定している。グループホームとしては広い敷地を有効に避難に利用している。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、夜間想定も含め利用者参加で防災・通報訓練を実施し、避難経路を確認している。 ・事業継続計画を策定している。 ・食料・飲料水の量・賞味期限を備蓄一覧で管理し、ヘルメット・懐中電灯を常備している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの研修を行い、人格を損ねない声掛けをしている。対応不十分な職員に対しては、管理者による個別指導がなされている。顕著な改善結果がみられないことが問題となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度プライバシー保護マニュアルを策定し、センター長は全体会議で説明するほか、毎日各ホームを巡回し、気になる言葉かけに気づいたときは指導している。 ・呼び名は利用者や家族の要望を聞き、利用者本位に対応している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、お客様の思いや希望をお聞きしている。希望があれば、出来る限りの対応が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で、お客様優先になっていない状況があることを会社も把握している。必ず改善させるとの代表の方針がだされたので、実際の支援方法が会社主導で示される。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服をお客様と一緒に選んでいる。月に1度、訪問理美容に来ていただき、パーマやカラーも提供している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年から毎月「給食会議」を開催し、「食事、その他の家事等」は利用者と介護職員の共同で行うことを目標として、各種計画を立案している。	<ul style="list-style-type: none"> ・給食会議で各ユニットの好き嫌いや食形態を検討し、調理を工夫している。 ・蒸しパンやおしるこ、たこ焼きづくり等の食レクを職員と一緒にを行い、正月やハロウィン、クリスマスには行事食を提供している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は個別の状況を往診医に相談しながら提供している。一人一人の歯の状態、咀嚼力、嚥下状態、活動性から判断しての食形態の選択を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただいている。訪問歯科医と相談し、お客様の状態にあわせたケアをしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、適時お声掛けをしている。可能な限り、トイレで排便を心がけた支援に努めている。	・排泄チェックシートでパターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。直接の声かけでなく、合図を工夫してトイレに誘っている。 ・おむつ利用者は数名で、交換は各居室で行っている。夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し、水分補給や体操等の働きかけをしている。食物繊維を意識したり、水分補給のためにお茶類、スポーツドリンクなど好みに合わせて提供している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は原則週2回、午前中を計画しているが、お客様の希望で夕方に入浴している方もおられる。季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を入れるなど入浴を楽しめるように工夫している。	・入浴は原則週2回、午前中としている。夕食前後の入浴希望にも応えている。入浴を好まない方には、時間や日を変えて誘っている。 ・利用者と一対一で接する時間として大切にし、リラックスした中で一緒に歌を歌ったり話をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に適度に体を動かすことで、夜間の安眠につながられるように工夫している。居室のベッド回りの環境を清潔に整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の情報は、職員が把握するようにしている。変更があった時は申し送りをしている。配薬、服薬時にはダブルチェックを行い、誤薬を防止している。今期の事故報告25件中服薬事故3件。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の趣味や好みを把握し、楽しく過ごせるように支援している。個別のお客様の生活源を把握しており、嗜好品、楽しみごと、気分転換のポイントをつかんでいる。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気温や体調に配慮し、散歩に行ったり、日向ぼっこをしていただいている。ご家族様と外出することもあ。日勤が2人体制であるため、短時間勤務スタッフの活用を計画している。現在は、ご家族が積極的に外出をサポートしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・天候が良いときは、庭での外気浴や散歩をしている。屋上にテーブルと椅子を置き、お茶を飲んだり日向ぼっこをしている。 ・家族に積極的な来訪をお願いし、協力を得ている。利用者は家族と墓参りやカラオケに行っている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などのサポート対応が可能な短時間勤務スタッフが配置された状況で、買い物が可能な入居者を選定して実施する。個々の商品の購入には会社が立替金にて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されているお客様もいる。希望があれば、お手紙を書き、集草されているお客様もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様が安らげる空間作りを心掛けている。季節に合わせた装飾を、お客様と一緒に制作している。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングにテーブルと椅子、ソファを複数配置し、利用者が好みの場所で過ごせるようにしている。 ・対面キッチンを設置し、調理の様子や匂いを感じることができる。 ・利用者と職員が一緒に制作した季節感のある装飾品を飾っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設では自由に行動していただいている。フロアでテレビを観たり居室で休まれたりしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具をもちこまれているお客様もおられる。家族の写真や絵を飾り、居心地の良い空間作りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・タンス・机等慣れ親しんだ家具や写真等を持ち込んでいる。入居時に利用者・家族と相談して配置し、生活状況により適宜変更している。 ・エアコン、ベッド、クローゼット、テーブルと椅子は、事業所で用意している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援の考え方を基本として、個々の方の「できること」、「わかること」を理解判断し、安全に暮らしていただけるようお手伝いをしている。		

事業所名	相模原古淵グループホームそよ風
ユニット名	星ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と事業所理念が存在します。理念に関するメッセージを毎日社長が職員に発信しています。この内容を毎月開催する事業所の全体会議で事業所職員に報告、説明を行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣農家と交流があり、季節ごとの収穫物をいただいている。春夏は胡瓜、ナス、トマト、秋冬は大根、白菜、ねぎなどをもらっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践で積み上げた認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に生かすための計画を立案している。短期的にはまず私どもも知っていただくということで、認知を高めてゆくことを進めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者のご家族、自治会長、民生委員、施設オーナー、包括センター職員が出席。入退去者推移、介護度や年齢の変化、事故報告やヒヤリハットを報告している。参加者から意見や助言をもらっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期開催の市内グループホーム部会に参加の際、行政からの情報を伝えることができる。事業所の実情を伝えるまでには至っていないが、今後は企業グループとしてのパイプづくりが主となると思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止・虐待防止委員会を8回開催 (5/29, 7/6, 7/31, 8/25, 9/19, 10/27, 11/24, 12/22) 研修を3回実施 (4/28, 8/25, 10/27) 星ユニットの職員は研修の理解度は高いが、研修が必要な職員の参加がない場合があった。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会及び研修については、上記と同じ。研修や注意後も一部職員による言葉による心理的虐待が継続、管理者による個別指導が行われている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されているお客様や今後検討しているお客様がいるため、理解しやすい状況にある。職員も高齢者が多いため、自身においても興味・関心が高い内容として学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様やご家族の不安や疑問を取り除けるよう、真摯に対応している。十分に納得してからご入居していただくように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、会社としてご家族に事業所ごとの「顧客満足度調査」を調査会社により、実施している。得られた調査結果を全体会議において、内容を説明し、改善点を確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が個々の指導も含めて、個別の面談を行っている。入社後の一定期間内に専門職員による個別面接も実施される。研修内容に現実との乖離があるなどの意見が出されています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎日職員に向けてメールにより、経営に関する理念や考え方を発信している。職員研習への参加や各事業所への訪問により、現場の生の情報を収集し、整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアの専門職員の充実ということサービスを目標としている。介護福祉士及び認知症実践者研修終了の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループ企業となった「ツクイ」と定例の会議とイベントの共同開催などを通じて、交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様やご家族様と時間をかけてお話することで、安心して入居していただけるよう努めている。退院による入居の場合は、病院に出向いて、本人の意向を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学を進めており、入居前に家族が困っていること、不安なこと、心配事、要望などに傾聴し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様やご家族様と時間をかけてお話することで、安心して入居していただけるよう努めている。経験豊富な複数のケアマネによる介護計画をベースに訪問医療関係者の意見も参考としている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護というグループホーム本来の機能と仲間を大切にするという会社理念を職員は理解しているので、双方に基づいたサービスを行う。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に対しても「仲間を大切にする」という会社理念から人と人のつながりを重視し、ご家族との対話の機会をもうけている。介護に対しての職員の思いを共有することにより、関係を築いてゆく。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢化により馴染みの人との面会は困難な例が多いが、関連する思い出や馴染みの場所については職員がよく理解しているため話をしたり、動画画像をみてもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様個々の持っている力を観察し、協調や繋がりをもてるように日常生活の支援内容を考えている。 例：席の配置やレクリエーションの組み合わせ		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も近況を報告してくださるご家族がいる。ケアマネージャーとの連絡も続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員一人ひとりが、常にお客様の日常生活における希望や意向の把握に努めるような高いコミュニケーション能力を要している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーやご家族様からの情報を職員が共有している。社内での情報共有のITシステムが活用されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の日常の行動や言動を観察し、ITシステムに記録している。この情報内容を多面的にいろいろな角度から検討し、お客様の状態に合った支援をするように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットごとのタブレットPCに介護計画の全項目を設定し、モニタリング結果を毎日記録している。介護計画については、社内スタッフと外部業者によるダブルチェックで内容が確認されています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子をケアカルテ（ITシステム）に記録し、職員全員が確認できるようにしている。ユニット会議を行い、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合サービスの特徴とする企業なので、他のサービスの利用が可能である。（施設の空き待ちでのショートステイ利用など）他サービスでの知見や情報を等事業所での活用も可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナによる影響は社会資源に対しても変化を生じたと考えられます。交流ができたり、関連のある地域資源はどのようなものがあるか再確認し、将来を見通し、どのように協働できるか考える。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医にご協力をいただいているが、入居以前のかかりつけ医に変わりなく受診しているお客様もおられる。医師の指示を受け、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護サービスを受けている。職員はお客様の状態を看護師に伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供や支援の為に、こまめに面会に努めている。家族と経過を共有し、互いに安心できるようにしている。病院関係者と情報交換することで、退院後はホームでの生活に早めに復帰できるように配慮している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様のご意向を確認し、重度化した場合の対応、看取り対応に関する指針の合意と契約書を取り交わしている。重度化や看取りに対する専門的対応のグループ内他施設の情報などもご説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にマニュアルを掲示し、緊急事態に対応できるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、避難の方法を確認している。訓練は昼間と夜間を想定している。グループホームとしては広い敷地を有効に避難に利用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの研修を行い、人格を損ねない声掛けをしている。対応不十分な職員に対しては、管理者による個別指導がなされている。顕著な改善結果がみられないことが問題となっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、お客様の思いや希望をお聞きしている。希望があれば、出来る限りの対応が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で、お客様優先になっていない状況があることを会社も把握している。必ず改善させるとの代表の方針がだされたので、実際の支援方法が会社主導で示される。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服をお客様と一緒に選んでいる。月に1度、訪問理美容に来ていただき、パーマやカラーも提供している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年から毎月「給食会議」を開催し、「食事、その他の家事等」は利用者と介護職員の共同で行うことを目標として、各種計画を立案している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は個別の状況を往診医に相談しながら提供している。一人一人の歯の状態、咀嚼力、嚥下状態、活動性から判断しての食形態の選択を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただいている。訪問歯科医と相談し、お客様の状態にあわせたケアをしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を持ちて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、適時お声掛けをしている。可能な限り、トイレで排便を心がけた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し、水分補給や体操等の働きかけをしている。食物繊維を意識したり、水分補給のためにお茶類、スポーツドリンクなど好みに合わせて提供している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は原則週2回、午前中を計画しているが、お客様の希望で夕方に入浴している方もおられる。季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を入れるなど入浴を楽しめるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に適度に体を動かすことで、夜間の安眠につながられるように工夫している。居室のベッド回りの環境を清潔に整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の情報は、職員が把握するようにしている。変更があった時は申し送りをしている。配薬、服薬時にはダブルチェックを行い、誤薬を防止している。今期の事故報告25件中服薬事故3件。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の趣味や好みを把握し、楽しく過ごせるように支援している。個別のお客様の生活源を把握しており、嗜好品、楽しみごと、気分転換のポイントをつかんでいる。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気温や体調に配慮し、散歩に行ったり、日向ぼっこをしていただいている。ご家族様と外出することもある。日勤が2人体制であるため、短時間勤務スタッフの活用を計画している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などのサポート対応が可能な短時間勤務スタッフが配置された状況で、買い物が可能な入居者を選定して実施する。個々の商品の購入には会社が立替金にて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されているお客様もいる。希望があれば、お手紙を書き、集草されているお客様もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様が安らげる空間作りを心掛けている。季節に合わせた装飾を、お客様と一緒に制作している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設では自由に行動していただいている。フロアでテレビを観たり居室で休まれたりしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具をもちこまれているお客様もおられる。家族の写真や絵を飾り、居心地の良い空間作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援の考え方を基本として、個々の方の「できること」、「わかること」を理解判断し、安全に暮らしていただけるようお手伝いをしている。		

事業所名	相模原古淵グループホームそよ風
ユニット名	月ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と事業所理念が存在します。理念に関するメッセージを毎日社長が職員に発信しています。この内容を毎月開催する事業所の全体会議で事業所職員に報告、説明を行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣農家と交流があり、季節ごとの収穫物をいただいている。春夏は胡瓜、ナス、トマト、秋冬は大根、白菜、ねぎなどをもらっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践で積み上げた認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に生かすための計画を立案している。短期的にはまず私どもも知っていただくということで、認知を高めてゆくことを進めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者のご家族、自治会長、民生委員、施設オーナー、包括センター職員が出席。入退去者推移、介護度や年齢の変化、事故報告やヒヤリハットを報告している。参加者から意見や助言をもらっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期開催の市内グループホーム部会に参加の際、行政からの情報を伝えることができる。事業所の実情を伝えるまでには至っていないが、今後は企業グループとしてのパイプづくりが主となると思います。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止・虐待防止委員会を8回開催 (5/29, 7/6, 7/31, 8/25, 9/19, 10/27, 11/24, 12/22) 研修を3回実施 (4/28, 8/25, 10/27) 月ユニット職員は委員会への参加率が高い。研修の理解度がやや低い。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会及び研修については、上記と同じ。研修や注意後も一部職員による言葉による心理的虐待が継続、管理者による個別指導が行われている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されているお客様や今後検討しているお客様がいるため、理解しやすい状況にある。職員も高齢者が多いため、自身においても興味・関心が高い内容として学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様やご家族の不安や疑問を取り除けるよう、真摯に対応している。十分に納得してからご入居していただくように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、会社としてご家族に事業所ごとの「顧客満足度調査」を調査会社により、実施している。得られた調査結果を全体会議において、内容を説明し、改善点を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が個々の指導も含めて、個別の面談を行っている。入社後の一定期間内に専門職員による個別面接も実施される。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎日職員に向けてメールにより、経営に関する理念や考え方を発信している。職員研習への参加や各事業所への訪問により、現場の生の情報を収集し、整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアの専門職員の充実ということサービスを目標としている。介護福祉士及び認知症実践者研修終了の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループ企業となった「ツクイ」と定例の会議とイベントの共同開催などを通じて、交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様やご家族様と時間をかけてお話することで、安心して入居していただけるよう努めている。退院による入居の場合は、病院に出向いて、本人の意向を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学を進めており、入居前に家族が困っていること、不安なこと、心配事、要望などに傾聴し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様やご家族様と時間をかけてお話することで、安心して入居していただけるよう努めている。経験豊富な複数のケアマネによる介護計画をベースに訪問医療関係者の意見も参考としている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護というグループホーム本来の機能と仲間を大切にするという会社理念を職員は理解しているので、双方に基づいたサービスを行う。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に対しても「仲間を大切にする」という会社理念から人と人のつながりを重視し、ご家族との対話の機会をもうけている。介護に対しての職員の思いを共有することにより、関係を築いてゆく。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢化により馴染みの人との面会は困難な例が多いが、関連する思い出や馴染みの場所については職員がよく理解しているため話をしたり、動画画像をみてもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様個々の持っている力を観察し、協調や繋がりをもてるように日常生活の支援内容を考えている。 例：席の配置やレクリエーションの組み合わせ		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も近況を報告してくださるご家族がいる。ケアマネージャーとの連絡も続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員一人ひとりが、常にお客様の日常生活における希望や意向の把握に努めるような高いコミュニケーション能力を要している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーやご家族様からの情報を職員が共有している。社内での情報共有のITシステムが活用されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の日常の行動や言動を観察し、ITシステムに記録している。この情報内容を多面的にいろいろな角度から検討し、お客様の状態に合った支援をするように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットごとのタブレットPCに介護計画の全項目を設定し、モニタリング結果を毎日記録している。介護計画については、社内スタッフと外部業者によるダブルチェックで内容が確認されています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子をケアカルテ（ITシステム）に記録し、職員全員が確認できるようにしている。ユニット会議を行い、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合サービスの特徴とする企業なので、他のサービスの利用が可能である。（施設の空き待ちでのショートステイ利用など）他サービスでの知見や情報を等事業所での活用も可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナによる影響は社会資源に対しても変化を生じたと考えられます。交流ができたり、関連のある地域資源はどのようなものがあるか再確認し、将来を見通し、どのように協働できるか考える。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医にご協力をいただいているが、入居以前のかかりつけ医に変わりなく受診しているお客様もおられる。医師の指示を受け、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護サービスを受けている。職員はお客様の状態を看護師に伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供や支援の為に、こまめに面会に努めている。家族と経過を共有し、互いに安心できるようにしている。病院関係者と情報交換することで、退院後はホームでの生活に早めに復帰できるように配慮している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様のご意向を確認し、重度化した場合の対応、看取り対応に関する指針の合意と契約書を取り交わしている。重度化や看取りに対する専門的対応のグループ内他施設の情報などもご説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にマニュアルを掲示し、緊急事態に対応できるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、避難の方法を確認している。訓練は昼間と夜間を想定している。グループホームとしては広い敷地を有効に避難に利用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの研修を行い、人格を損ねない声掛けをしている。対応不十分な職員に対しては、管理者による個別指導がなされている。顕著な改善結果がみられないことが問題となっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、お客様の思いや希望をお聞きしている。希望があれば、出来る限りの対応が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で、お客様優先になっていない状況があることを会社も把握している。必ず改善させるとの代表の方針がだされたので、実際の支援方法が会社主導で示される。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服をお客様と一緒に選んでいる。月に1度、訪問理美容に来ていただき、パーマやカラーも提供している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年から毎月「給食会議」を開催し、「食事、その他の家事等」は利用者と介護職員の共同で行うことを目標として、各種計画を立案している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は個別の状況を往診医に相談しながら提供している。一人一人の歯の状態、咀嚼力、嚥下状態、活動性から判断しての食形態の選択を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただいている。訪問歯科医と相談し、お客様の状態にあわせたケアをしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を持ちて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、適時お声掛けをしている。可能な限り、トイレで排便を心がけた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し、水分補給や体操等の働きかけをしている。食物繊維を意識したり、水分補給のためにお茶類、スポーツドリンクなど好みに合わせて提供している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は原則週2回、午前中を計画しているが、お客様の希望で夕方に入浴している方もおられる。季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を入れるなど入浴を楽しめるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に適度に体を動かすことで、夜間の安眠につながられるように工夫している。居室のベッド回りの環境を清潔に整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の情報は、職員が把握するようにしている。変更があった時は申し送りをしている。配薬、服薬時にはダブルチェックを行い、誤薬を防止している。今期の事故報告25件中服薬事故3件。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の趣味や好みを把握し、楽しく過ごせるように支援している。個別のお客様の生活源を把握しており、嗜好品、楽しみごと、気分転換のポイントをつかんでいる。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気温や体調に配慮し、散歩に行ったり、日向ぼっこをしていただいている。ご家族様と外出することもある。日勤が2人体制であるため、短時間勤務スタッフの活用を計画している。近隣の散歩を職員が努力している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などのサポート対応が可能な短時間勤務スタッフが配置された状況で、買い物が可能な入居者を選定して実施する。個々の商品の購入には会社が立替金にて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されているお客様もいる。希望があれば、お手紙を書き、集草されているお客様もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様が安らげる空間作りを心掛けている。季節に合わせた装飾を、お客様と一緒に制作している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設では自由に行動していただいている。フロアでテレビを観たり居室で休まれたりしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具をもちこまれているお客様もおられる。家族の写真や絵を飾り、居心地の良い空間作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援の考え方を基本として、個々の方の「できること」、「わかること」を理解判断し、安全に暮らしていただけるようお手伝いをしている。		

目標達成計画

事業所名 相模原古淵グループホームそよ風

作成日 令和6年3月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	専門教育を受けていない経験年数の短いスタッフへの教育の充実と研修機会の提供が認知症ケアの質向上につながる。教育・指導ができるスタッフの育成が必要である。	認知症ケア専門職員の充実ということをサービス面での目標としている。	認知症ケア研修の倍増。介護福祉士資格取得及び認知症実践者研修修了の機会を促進する。	2024/4/1 ~ 2025/3/31
2	18 23 24 25 26 38	職員側の都合で、お客様優先になっていない状況がある。共同生活介護の手法に沿って改善を考える必要がある。	職員一人ひとりが常にお客様の日常生活における希望や意向の把握に努め、日々の介護に反映させる。	介護計画に対する理解を深め、なぜかという理由を重視する。ユニット会議においてPDCAサイクルなどで介護計画の検討を行う。	2024/4/1 ~ 2025/3/31
3	3	「地域からの支援体制を検討する」という目標を立ててきたが、大きな進展は見られていない。	地域行事へのお客様の参加やボランティアの受入など地域との連携を行う。	まず近隣地域にどんなリソースがあるのか再確認する。各対象に対して施設に対する認知度をあげる。	2024/4/1 ~ 2025/3/31
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。